

サタ☆くら通信

第5号

青森家庭少年問題研究会では、今年7月から、毎週土曜日の午前中、小学生・中学生を対象に、学習支援活動を行っています。青森市母子寡婦福祉会の協力を得て、ひとり親家庭の子どもたちを対象に、ボランティアとして登録してくれた県立保健大学・弘前大学の学生さんが、子どもたちの学習進度に合わせて、1対1で勉強を教えています。



あけましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話になりました。皆様の暖かいご支援により、手探り状態ながら、無事活動を続けることができました。これから高校受験を迎える子どももいることから、今年も学生さんたちの若々しいエネルギーに支えられ、これまで以上に一人ひとりに応じた支援活動を続けて行きたいと考えています。

引き続き、ご支援をお願い申し上げます。

1月3日付けの「サタディ☆くらぶ」の活動が紹介されました。取材に当たった記者の下田由理恵さんは、子どもの福祉問題に関心を持っておられ、ひとり親家庭のおかれている厳しい状況にも理解を示し、この学習会の取組を暖かい目線で紹介してくれました。感謝申し上げます。

青森家庭少年問題研究会では、学習支援に協力してくれる学生を募集しています。小・中学生とじっくり接してみたい方、子どもの福祉、教育に関心のある方は、ぜひ一度ご連絡ください。

デーリー東北 2014年(平成26年)1月3日(金曜日)

全ての子どもに希望を

学生がボランティア「サタディ・くらぶ」(青森)

保護者のよりどころにも

教室内では子どもたちの笑顔が絶えず、和やかな雰囲気で行業が進む。2013年12月、青森市

サタディ☆くらぶは、青森家庭少年問題研究会(弘前市)が主体となっていて、毎週土曜日の午前中に開催。登録料として500円掛かるが、受講は無料だ。

13年12月現在の生徒は7人で、弘前大学と県立保健大学の学生16人が在籍。生徒が持ち込む教材を基に、学生が個別指導する。

同12月中旬、青森市内。「漢字テストを作ってきたよ。県立保健大2年の沼山瑞樹さん(20)は、担当する中学3年生の男子生徒に、手作りのプリントを渡した。

時折、生徒の手が止まる。「受験用の漢字だから難しいね。優しく声を掛けて一緒に脳み、見守った。

教室内では、集中力が続かずに、走り回ったりや社会学などさまざまでしょう児童の姿も。ま。サタディ☆くらぶで初めて同大2年の杉山優さん(20)は、ホワイトボードに絵を描く男子児を教える学生も少なくない。生徒が持つ数字をゲーム形式で漢字練習を始めた。「向き合い方は一人一人違う。無理やりではなく、楽しく勉強してもらいたい」

教育分野の学生もいるが、専攻は社会学だ。

家庭環境によって子どもが増えたり、経済的・時間的に手が回らなくなる「負の連鎖」が懸念され、保護者のよりどころにもなっている。13年6月には、同研究会の最上和幸共同代表は「ひとり親対策の推進に関する法律」が公布された。サタディ☆くらぶがスタートして半年近く、成績向上の成果がみられる一方、新たな居場所として楽しみたい子どもが増えている。

家庭環境によって子どもが増えたり、経済的・時間的に手が回らなくなる「負の連鎖」が懸念され、保護者のよりどころにもなっている。13年6月には、同研究会の最上和幸共同代表は「ひとり親対策の推進に関する法律」が公布された。サタディ☆くらぶがスタートして半年近く、成績向上の成果がみられる一方、新たな居場所として楽しみたい子どもが増えている。